

立正大学国際交流センター主催

第5回
英語スピーチコンテスト
RISSHO VOICES

2024.11.30. Sat.
13:00~16:00 (予定)

立正大学 品川キャンパス
ロータスホール

国際交流センター長からのご挨拶

I would like to extend a warm welcome to all those in attendance here today. This year marks Year Five of the Rissho Voices Speech Contest. How quickly time flies! It seems like just yesterday that the idea of a university-wide speech contest seemed like a faraway dream. In the span of five years, over 40 students will have made their voices heard in this event. It has truly been a privilege to oversee the contest to this point.

As this will be my final speech contest as the Director of the Center for International Exchange, I would like to thank all the participants from this year and years past. Your initiative and ambition were truly inspiring. I would also like to extend my gratitude to all the professors and university staff who have worked tirelessly behind the scenes to bring this event to fruition.

Special thanks to the preliminary round and final round judges, and International Section Manager, The Head Office of Nichiren Shu, Reverend Keiji Oshima, for their support throughout the year.

After listening to today's speeches, I hope you will come away with a broader perspective of the world. Now, let's listen to the voices of Rissho Senior High School and Rissho University.

Director, Center for International Exchange, Rissho University



Gary Dendo

本日ご出席の皆様を心から歓迎いたします。立正大学英語スピーチコンテスト Rissho Voices は今年で5年目を迎えました。時が経つのは早いものです。全学的な英語スピーチコンテストという構想が、遠い夢のように感じられたのが、まるで昨日のことのようです。この5年間で40人以上の学生が、このイベントで自分の声を発信してきました。ここまでコンテストの責任者として携われたことは、本当に光栄でした。

今回が私にとって、国際交流センター長として最後のスピーチコンテストとなります。今年の参加者、そして過去の参加者の皆さんに感謝の意を表したいと思います。皆さんの行動力やチャレンジ精神には心を打たれました。

また、このイベントの実現に向けてご尽力いただいた先生方や職員の皆様にも深く感謝申し上げます。

そしてこれまで、本コンテストの実施に際してご支援、ご協力いただきました、予選・本選の審査員の皆様、日蓮宗宗務院国際課長の大島啓慈上人に、厚く御礼申し上げます。

本日のスピーチをお聴きになり、世界への視野を広げる機会としていただければ幸いです。それでは立正大学付属立正高等学校と立正大学の学生の声に耳を傾けましょう。

立正大学国際交流センター長
デンドウ ゲーリー

スケジュール

時刻	内容
13:00	開会式
13:15	発表
13:55	途中休憩
14:05	発表
14:40	途中休憩
15:20	表彰式・閉会式
16:00	スピーチコンテスト終了

賞 一 覧

1位～3位	大学の部より各1名
日蓮宗いのちに合掌特別賞	大学の部より1名
奨励賞	大学の部より5名
敢闘賞	高校の部より2名

テーマ一覧

学生が下記より関心のあるテーマを1つ選んで、スピーチを行います。

1	Dealing with Japan's Population Crisis
2	Our Responses to Natural Disasters
3	Coexistence with Diverse People (Friendship Beyond Diverse Differences)
4	Japanese Culture and Its Contributions to International Society
5	Social Participation and Responsibility of Young People
6	Education: The Future of Education or The Meaning of Education

Recognizing Your Privilege: The First Step Toward a Society for All

Faculty of Psychology Ruku USHIODA (潮田 るく)

【選択テーマ】

Coexistence with Diverse People (Friendship Beyond Diverse Differences)

【スピーチ概要】

Goodman (2011 田辺・出口訳 2017)は、ある社会集団に属することで労なくして得られる優位性・権力を「特権」と定義し、真のダイバーシティを目指すには、特権に気付き、意識を変えることが重要だと主張しています。本スピーチでは、自身の経験を基に、より包摂的な社会の構築への第一歩を模索します。

【学生からのメッセージ】

あなたが持つ特権に気付き、意識を変えることで、どのようなアクションを起こしていくか。一緒に考えてみませんか？

Why Not Speak English?

Faculty of Business Administration Minori KATSUTA (勝田 稔規)

【選択テーマ】

Education: The Future of Education or The Meaning of Education

【スピーチ概要】

2023年のエデュケーション・ファースト「英語能力指数」ランキングによると、日本は過去最低の87位（アジア15位）でした。6年間も英語を学んでいるのに、なぜ多くの日本人が英語を話せないのでしょうか？本スピーチでは、その理由と英語教育の改善、異文化交流の重要性について考えを述べたいと思います。

【学生からのメッセージ】

皆さんは英語が好きですか？高校生の頃の僕は英語が嫌いでしたが、英語を話す楽しさを知った時、それが自分の強みに変わりました。日本の英語教育を変えれば、この楽しさに気付く人がもっと増えると思っています。

Language as a Wall and a Cure-all

Graduate School of
Humanities and Sociology

Rie GOMI (五味 利恵)

【選択テーマ】

Coexistence with Diverse People (Friendship Beyond Diverse Differences)

【スピーチ概要】

3 生まれて初めての海外、向かった先はアメリカ。英語が話せないことで冷たい対応を受けた私は、長年日本で暮らす、日本語を母語としない母のことを思い浮かべました。外国人というラベリングや、言語の壁がいかに母を排斥していたのか。二十数年生きていた私は、アメリカでの経験を経て、はじめて問題に気づいたのです。

【学生からのメッセージ】

文学は世の中の固定観念や「ことば」そのもののしがらみを塗り替えようと新たな表現を模索し続けてきました。私の感じた混乱を、あえて英語で語ることで、表現の可能性を拓いてみたいと思っています。

To Each Their Own

Faculty of Data Science

Emi MAEKAWA (前川 恵美)

【選択テーマ】

Coexistence with Diverse People (Friendship Beyond Diverse Differences)

【スピーチ概要】

4 多様性が求められる時代において、私たちはさまざまな価値観をもつ人々と共に生きています。多様な人々と共存するために必要なこと、お互いの意見を尊重し、重視することが大切さについて、【普通】とは何か、多様な人々と共に生きるために必要な心構えについて。

【学生からのメッセージ】

私達が普段生活している中でよく聞く【普通】という言葉。現代社会において普通に生きる難しさ、自由に生きるためには多様な人々とどのように共存すればいいのか。

【普通】であることについて考えてみました。

Origami and Ukiyo-e: Japan's Cultural Legacy and Global Impact

Faculty of Law

Tomomi YAGI (八木 友美)

【選択テーマ】

Japanese Culture and Its Contributions to International Society

【スピーチ概要】

5 日本の伝統文化の中で、折り紙のように一見ただの遊びに見えるものでも、宇宙や医療分野で活用され、実用的な技術として世界に貢献しています。また、浮世絵は西洋に影響を与え、異文化交流の架け橋となり、日本と世界はこうした文化交流を通じてお互いの技術や美意識を取り入れあい、お互いの発展に寄与しています。

【学生からのメッセージ】

折り紙や浮世絵のように、身近な日本文化が世界とつながり、様々な分野で役立っています。私たちの文化が国際社会に貢献する喜びを一緒に感じていただけたら幸いです。

Fear Right and Prepare Right

Faculty of Business
Administration

Eito NOGUCHI (野口 永遠)

【選択テーマ】

Our Responses to Natural Disasters

【スピーチ概要】

地震・津波・台風・大雨・土砂...

6 私たちが住んでいる日本では、身近な存在である自然が容赦なく襲ってきます。

特に地震は人知を超える脅威ですが、成す術が無い訳ではありません。

備えることで救える命があります。

そんな「防災」の重要性を、先日参加したボランティア活動での経験と絡めてお話しします。

【学生からのメッセージ】

皆さんが思う「防災」とは何でしょうか？

思い浮かぶことはすべて重要で、ある程度備えることが求められます。

では朝、近隣の方に「おはようございます」と言えていますか。

実はこれも防災の一つなんです。

The Importance of Disaster Prevention

Faculty of Business
Administration

Miyu HORII (堀井 美結)

【選択テーマ】

Our Responses to Natural Disasters

【スピーチ概要】

7 今年の初めにあった能登半島地震を覚えていますか？私は震源から近い富山県の祖母の家で体験しました。大きい地震が起こることがあまりないため防災グッズなどの対策をしておらず、逃げ遅れるのではないかと怖い思いをしました。この経験から私は、自然災害、特に地震への対策のためにできることを考えました。

【学生からのメッセージ】

自然災害は突然起こります。分かっているけど対策は後回しにすることが多いでしょう。自分の命だけでなく大切な家族や友人を守るため、改めて考えるきっかけとなれば幸いです。

Japanese Anime is Connecting the World as One

Faculty of Law

Masaki FUKUZOE (福添 真生)

【選択テーマ】

Japanese Culture and Its Contributions to International Society

【スピーチ概要】

8 日本のアニメは、今では「オタク」とどまらず世界中で愛されていることを知っていますか？

このアニメの人気・力を今の日本のため、ひいてはハリウッドの映画のように世界を一つにするコンテンツにしていきたいと私は考えています！

【学生からのメッセージ】

今、私が急に「ゴムゴムの～」と言い出すと、大半の人は私が海賊王を目指しているんだろうな、と判断してくれると思います。

地球の裏側で「ゴムゴムの～」と言っても通じる世界、絶対面白くないですか？

9	<h2>The Spread of SNS and Changes in Human Relationship</h2>
	<p>Rissho Senior High School Hinata NAKAI (中井 陽向)</p>
	<p>【スピーチ概要】 近年の私たちの生活は、SNSの普及によって大きく変わりつつあります。それは、具体的にどのような影響を及ぼしたのでしょうか。今回はSNSの発達のもたらした恩恵や課題を鑑みて、どのような使い方をすべきなのかを考えました。</p>
<p>【学生からのメッセージ】 SNS社会の中で過ごしている学生だからこそ、身近に感じられる内容だと思います。 とても緊張しますが、一生懸命頑張るのでよろしくお願いします。</p>	
10	<h2>Why People Have Prejudice?</h2>
	<p>Rissho Senior High School Aili CHEAH (チャア 愛梨)</p>
	<p>【スピーチ概要】 なぜ私達は偏見を持つてしまうのでしょうか。相手の事を完全に分かっている訳ではないのに、優しそう、怖そう、頭がよさそうなどその人の見た目ですら内面まで固定しがちです。しかし、本当にその偏見、いつも合っているのでしょうか。</p>
<p>【学生からのメッセージ】 今回のような英語でスピーチを大勢の方の前で発表するのは初めてなので、このような機会をいただけて嬉しいです。自分の秘めた思いが皆さんに伝わるようにスピーチします。 とても緊張していますが、応援よろしくお願いします。</p>	

審査員

Matthew Dean OWNBY (マシュー・オンビー 氏)

日本在住19年目。大学にて電気工学と機械工学をダブル専攻し、卒業後は医療機器エンジニアとしてNASAに入社。来日後は複数の外資系企業でセミナー講師を務めた後に独立。現在はフリーランスの英語プレゼンや異文化、CS研修の講師として活躍しており、日本企業の従業員に必要なコミュニケーションスキルを指導している。

Shigeru KOBAYASHI (小林 茂 氏)

2005年からToastmasters International会員。同全日本日本語スピーチコンテスト優勝2回(2012年、2013年)。津田塾大学津田梅子記念交流館スピーチ&プレゼン講座講師5年(2013年~2017年)。現在、光電子部品メーカーにおいて製品開発、海外マーケティングなどを担当。博士(工学)。

Keiko NAKAMURA (中邑 啓子 氏)

明海大学外国語学部教授。主要研究テーマは、言語発達・第2言語習得(ナラティブ、談話能力、ジェンダー、敬語、など)、バイリンガリズム(コードスイッチング、アイデンティティ)。

Yuka MATSUZAWA (松澤 由佳 氏)

トーストマスターズ日本が主催の英語ユーモアスピーチコンテスト全国大会ファイナリスト。全国大会を含め、各レベルのコンテストで日英の審査員経験あり。現在は、英語マニュアルの制作、翻訳、校正などを手掛ける。

特別審査員

Keiji OSHIMA (大島 啓慈 上人)

日蓮宗宗務院伝道部国際課長。上智大学外国語学部を経て、立正大学仏教学部を卒業。学生時代に中南米を遊学した経験を活かして、日蓮宗の国際布教師として、ヨーロッパや東南アジアに7年間駐在し、英語をはじめとする外国語での布教活動に従事した。

